

# 「水が飲みたい」か「水を飲みたい」か

—初級日本語におけるその教育的選択—

藤 田 正 春

## はじめに

一つの言語を習い覚えるということは、ここで改めて述べるまでもなく、一朝一夕でできるようなことではない。たとえ、それが母語の場合であっても、言語を習得するという行為は、意識的あるいは無意識的に、その人の一生を通して続けられる。まして、外国語として言語を学ぶ学習者にとって、その道が気が遠くなるほど長くまた険しいものであることは、間違いない。外国語教育の初級、中級段階で、学習の効率化を進めるために、できるだけ易しく基本的でかつ応用性の高い語彙なり文型なりを選択し学習者に提示していくことが教授者の側に要求される理由は、このあたりにあると思う。

今回、外国語としての日本語教育という観点から、他動詞<sup>1)</sup>に願望の助動詞「たい」<sup>2)</sup>のついた表現における目的語<sup>3)</sup>を示す助詞の「ゆれ」<sup>4)</sup>の問題を取り上げることとした。すなわち、「水が飲みたい」という表現と「水を飲みたい」という表現とでは、いったい、どちらが正しいと考えられているのか、また、どちらも正しく文脈によって使い分けられているとしたら、それは、どういう場合にどう使われているのか、さらに、教える場合には、この問題をどう扱っていくのがいいのか、ということである。

本稿では、まず、i) この問題に関する国語研究者や日本語教育研究者の解釈や説明を概観し、次に、ii) 今回行った「現代日本語の用法に関するアンケート」(資料1)の中の「たい」に関する項目の調査結果を中心に、その使用の実態を分析し、最後に、まとめとして、i)とii)を踏まえた上で、iii) 日本語教育の初級段階で「他動詞+たい」という願望表現をどのように位置づけていったらいいのかについて私見を述べたいと思う。

## I 国語研究者・日本語教育研究者の文法的説明

願望表現に関しては、これまで文法家の間で何度となく問題にされてきた。その中で有力だったのは、「水が飲みたい」が標準的であり、「水を飲みたい」は文法的に正しくないという説だろう。

吉沢義則は、「水を飲みたい」「画を書きたい」という表現について

小説の中などに時々こんな形が見えているが、それは作家が、「水を飲む」「画を書く」という形から誤って類推した人為的作例であって、決して自然に存在している言語現象ではない。

と言い切っている<sup>5)</sup>

また、山田巖によれば

この教科書（文部省編『中等文法一』（昭和19.1））につけて出版された『編纂趣意書』には、…

…希望を言い表す場合には、…場合によって、「水を飲みたい」のように「を」を用いることもあるが、それは標準的な言い方とはしがたい。やはり「が」を用いるのが正しい。

と説明されており、理由は示されていないが、「水が飲みたい」という言い方が正しく、「水を飲みたい」という言い方は標準的な言い方ではないという説がはっきり打ち出され…戦後出版された他の文法教科書の教師用参考書もだいたいこの説明と同じように「水が飲みたい」という言い方を標準的な正しいものと述べている。

ということだ。<sup>6)</sup>

また、国立国語研究所話しことば研究室が国語研究者、言語・外国語研究者、国語教育関係者ら300人を対象に行った「語形確定のための基礎調査」では

A 水が飲みたい・B 水を飲みたい

回答者181

〔採る形〕A形が多数。第1回調査でも同じ。

〔理由〕A形—一般的45%，本来の日本語調35%，伝統的24%，増加の傾向・規範に合う各11% B形—論理的23%，増加の傾向10%（翻訳調26%）（「増加の傾向」「伝統的」「本来の日本語調」「翻訳調」「論理的」がそれぞれ多く出たことが特徴的。）…B形を「特殊的」とするもの、A形を「望ましい体系を作る」とするものは、ともにあまり多くは出なかったが、その中では、国語1\*・国語2\*\*に著しく多い。

\*国語研究者のうち、現代語について研究をしている人。ただし、方言だけの研究をしている人は、これにはいない。

\*\*その他の国語研究者

と報告されている。<sup>7)</sup>

このように、国語研究者の多くは、「水が飲みたい」を正しいとする規範的立場をとっている。これに対して、「水を飲みたい」という表現も認めるべきであるとする意見も、いくつか見られる。

湯沢幸吉郎は、『現代日本語法の諸問題』の中で、『日本語表現文典』の中の記述<sup>8)</sup>を一步進めた形で、

われわれが普通の心持でいう時は「お茶が飲みたい」というが、特に「飲む」ことを強く頭に浮べると、自然に「お茶を飲みたい」ということになるものだろうと思う。之を表現された上からいうと、「お茶が飲みたい」の場合には、「飲み」と「たい」との何れにも

軽重がある訳では無く、「飲みたい」が一語の「ほしい」などと同様の語であるが、「お茶を飲みたい」の場合は、「飲み」に重点を置いた表現であると、解すべきものかと思う。「飲み」「飲む」は、常に「水を」「薬を」「酒を」のように、「を」の付いた語と共に用いられるので、「飲み」に重点を置けば「お茶を飲み、たい」というのは自然である。と指摘し、<sup>9)</sup>、さらに、具体的な例を挙げながら、

○寧そ水を持って来て貰い度いネ（浮雲、二ノ十）…／○しかし徳松は、それをいま種吉の口から聞きたくなかった（ふゆぞら）／○この金を半分だけさし上げとうございます（読本七ノ120頁）などは、「を」の代りに「が」とすると、却って不自然な感じさえ起るのである。

と述べ、<sup>10)</sup>「を-たい」も認めるべきだと主張している。

また、松村明は、歴史的な資料に基づき、「が-たい」と「を-たい」という二つの言い方が併存していたことを指摘しながら、

「水が飲みたい」という言い方だけを正しいとし、「水を飲みたい」という言い方は正しくないとして、こういう言い方を用いないようにしようとするのは根拠がないものと認められる。われわれの言語使用の実際を反省してみても、ある場合において、「が」を用いる言いの方が、われわれの表わそうとする気持ちにじっくりすることがあるのはたしかに事実であるが、しかしまた、ある場合においては、「が」でなく「を」を用いる言いの方がむしろその場にじっくりした表現をとることが出来ると思われるようなことのあるのもまた事実であると思われる。したがって、「水が飲みたい」という言い方をするか、「水を飲みたい」という言い方をするかは、結局表現価値の問題であって、その場その場の条件に応じて、どちらかの言い方をするものと考えるのが適当と考えられる。これをただ形式的に一方の言い方だけを正しい（標準的な）ものとし、他の言い方を正しく（標準的で）ないものとして、むりに一方の言い方だけをおしつけるのは、実際に行われている言語事実に反するもので、誤った規範意識によるものである。

と述べ、<sup>11)</sup>「水が飲みたい」だけを正しいとする説に、鋭い反論を加えている。

この松村の論文以降、国語研究者や日本語教育研究者の間では、「を-たい」を正しくないとする声は影をひそめ、研究の方向は、しだいに「が-たい」と「を-たい」の使い分けがどのように行われているかに関する分析・検討の方に移ってきている。

田村すづ子は、i) 目的語と動詞とが連用修飾語などによって遠く離されている場合、ii) 「漢語熟語動名詞+する」（例えば、購入する）の場合、iii) ( 本箱 を - 買い ) たい」という文の構造になっている場合、の三つについては、希望形の目的語が「を」を伴うとしている。<sup>12)</sup>

大江三郎は、i) 前提と焦点の関係によって「が-たい」と「を-たい」の使い分けが行われること、ii) 吸収・吸引型の動詞（例えば、もらう・借りる・習うなど）と放出・離脱型の動詞（例えば、上げる・貸す・教えるなど）を比べた場合、後者において「が」をとりにくいこと、<sup>13)</sup>

iii) 比較的長い動詞(例えば、けいこする・予習するなど)の場合には「を」をとりやすいことを指摘している。<sup>14)</sup>

最近の分析では、森田良行が、表現意図という観点から、「水が飲みたい」は名詞部分に、「水を飲みたい」は「…したい」の動詞部分にその表現意図があるとして、「が-たい」と「を-たい」の区別をし、さらに、次のように説明している。

一般に「…を…する」文型を希望表現に変えると「を」は「が」に置き換えられると説かれているが、「…が…たい」の発想は意外に少ない。多くの動詞は、特定の対象があって初めてどのようにしたいのかを考える動作や行為である。対象もないのに、むやみと…したいと考えるような本能的な行為ではない。「何か飲みたいな」と思うから「水が飲みたい」と言えるのである。「何か捨てたいな」とか、「だれかほめたいな」とかという発想は日常生活では存在しないから、「水が捨てたい」とか「人がほめたい」とは言わないだけである。「この水をどうしようか?」「彼をどうしてやろうか?」と考えるとき、初めて「この水を捨てたいのです」「彼をほめてやりたい」という希望判断が生まれる。<sup>15)</sup>

また、森田は、「水が」の部分に人間がくる場合について、

「だれそれが…したい」となってC(人間)自身が希望主体になってしまうため、ガ文型は成り立ちにくい。そのため「彼女が愛したい」「彼が認めたい」とはならず、「彼女を愛したい」「彼を認めたい」のようにヲ格を取って、その人物Cを希望の対象にすえるのである。

と指摘し、<sup>16)</sup> これを「が-たい」に関する新しい制約として提出している。

以上が、「水が飲みたい」と「水を飲みたい」に関する、これまでの研究者の見解である。

## II 願望表現における助詞の「ゆれ」の実態

実際には、「水が飲みたい」と「水を飲みたい」のどちらが使われているのか、今回、「現代日本語の用法に関するアンケート」の中に「たい」に関する項目をいくつか設け、その使用の実態を調べてみた。

### 1. 調査の概要

まず、現代日本語において「ゆれ」が見られるものの中から調査項目を選び、二文一組、○×方式(？を含む)によるアンケートの形にした。昨年11月末にアンケート用紙を作成し、各地の友人・知人の協力を得て、950部余を配布した。そのうち3月中旬までに689部を回収し、記入もれその他不備な点のある22部をぬいて、最終的に667部を今回の分析の対象とした。表1は、その生育地別回答者数である。

分析に際しては、○、?、×を、それぞれ2点、1点、0点として換算し、<sup>17)</sup> それぞれの文について平均点(Ⅱ. 2で①~⑨までの各文の後に〔 〕に入れて示した)を出した。また、これとは別に、?と×を一括して「不自然である」と判断したものと見なし、その合計人数を回答者

数で割って百分率を出し、それぞれの文の「不自然度」とした。(資料2)

表1 生育地別回答者数\*

年 齢 \ 地 域	北 海 道	東 北	関 東	甲 信 越	東 海	北 陸	近 畿	中 国	四 国	九 州	そ の 他	計
10 歳 未 満			2									2
10 代	5	16	7	5	3	6	31	21	1	49		144
20 代	9	32	54	19	29	11	34	8	1	19		216
30 代	10	9	30	16	7	1	13	7	2	17		112
40 代	4	11	22	29		1	7	7		10	5	96
50 代	6	15	8	13	2	2	2			19	1	68
60 代		5	1	4		1				4	1	16
70 代		3		5			1			1	1	11
80 代		1								1		2
計	34	92	124	91	41	22	88	43	4	120	8	667

\*三歳と十歳を分類の目安にし、例えばA地域からB地域へ三歳前に移った人の場合はB地域、また十歳後に移った人の場合はA地域をそれぞれその人の生育地とした。また、三歳から十歳までに移動のあった場合は、個々の場合について判断をした。「その他」は生育地が韓国、台湾などにあたる人の場合である。

## 2. 調査結果とその分析

- ① a. A: 何が買いたい? [ 1.19 ]  
 B: 車が買いたいなあ。
- b. A: 何を買いたい? [ 1.88 ]  
 B: 車を買いたいなあ。
- ② a. 今、とってもフランス語が勉強したいんです。 [ 1.00 ]  
 b. 今、とってもフランス語を勉強したいんです。 [ 1.93 ]
- ③ a. ホームランが打ちたいなあ。 [ 1.03 ]  
 b. ホームランを打ちたいなあ。 [ 1.93 ]

この三組は、目的語のすぐあとに動詞が来ているという点で共通しているが、①には疑問詞(何)が、②には強調の語句(とっても)があるという点で③と異なっている。①から③を通じて、「が」の得点は「を」ほど高くはないが、「が」は使えないと結論するほど低くもない。場合によって使い分けているのであろう。

④ a. 早く、ギャンブル生活から足を洗いたい。〔 0.41 〕

b. 早く、ギャンブル生活から足を洗いたい。〔 1.98 〕

これは、「足を洗う」という慣用句について調べようとしたものだが、得点の上から言って、「が」は使いにくそうだ。「手を組む」「鼻をあかす」「目を通す」「花を咲かせる」など、この種を例を出して「を」が「が」になりにくいことを正当づけることは、それほど難しいことではなからう。<sup>18)</sup>

⑤ a. カラオケで演歌が思う存分歌いたい。〔 0.43 〕

b. カラオケで演歌を思う存分歌いたい。〔 1.99 〕

これは、動詞と目的語が連用修飾語によって分けられている場合である。この場合に関しては、先にあげた田村など多くの文法家が指摘しているところであり、得点や資料3の文例から見ても、「が」は出てきにくいようだ。

⑥ a. いろんな種類のワインが飲んでみたい。〔 0.79 〕

b. いろんな種類のワインを飲んでみたい。〔 1.97 〕

⑦ a. 卒業までに、できるだけたくさん本が読んでおきたいわね。〔 0.27 〕

b. 卒業までに、できるだけたくさん本を読んでおきたいわね。〔 1.99 〕

⑧ a. すぐ、この仕事がやってもらいたい。〔 0.27 〕

b. すぐ、この仕事をやってもらいたい。〔 1.99 〕

⑥から⑧は、「動詞の連用形 (te-form) + 補助動詞」に「たい」がついた場合である。得点から見ると、「～てみる」と「～ておく」「～てもらう」の間には、一線を画すことができそう。私見では、後者の場合、補助動詞部分と目的語の結びつきが強く、それが「が」を取りにくくしているのではないかと思う。この点に関しては、「～を～たいと思う」も同類であると思われる。このほか、資料3の中には、付属語がついて動詞の部分が長くなったものとして、「動詞+使役の助動詞」、「お-する/御-する」などの文例が見られ、どの場合も、「を」が使われている。

⑨ a. ビールが飲みたくなるのは、風呂あがりだな。〔 1.35 〕

b. ビールを飲みたくなるのは、風呂あがりだな。〔 1.86 〕

これは、「～のは～だ」という文型<sup>19)</sup>の中に「たい」が出てくる場合の例である。一様に得点が低かった「が」の中で一番高い得点だったのが、この⑨の場合である。得点が高かったことの説明としては、「～のは～だ」文型では名詞に焦点があることが多いのではないかということが考えられる。

以上、今回行ったアンケート調査の結果について述べてきたが、ここで簡単にまとめてみると、

1) 「を」がほとんどすべての場合について正しいと思われるのに対し、「が」は、不自然な場合が多い。特に、目的語と動詞、目的語と付属成分などの結びつきが強い場合や、目的語と動詞が遠く離れている場合には、「が」になりにくい。

2) 名詞に焦点があると思われる場合には「が」がよく現われ、「他のものではなくて何々が」という表現価値的側面が出る。<sup>20)</sup> ただし、今回の調査結果を見る限り、この場合でも、「を」は間違いであるとは言えない。

### 3. 調査に関する反省と今後の課題

今回の調査では、ある文が自然であるかどうかを調べるのに、○、?、×という三段階で判断してもらうことにしたが、回答者から三段階では不十分であるという指摘があった。この指摘は、この種の調査法に対して重大な問題を投げかけていると同時に、ある文が非文（文法的に正しくない文）であるとされる場合に、それがだれの、どんな基準による判断なのかということについても、根本的な問いかけをしているように思う。<sup>21)</sup>

また、分析をしている際に気づいたことだが、?の回答には、個々の文について判定した場合と二つの文のうちどちらが正しいかという場合の二通りが考えられるのではなからうか。つまり、絶対評価と相対評価が混ざってしまったのではないかということである。今後この種の調査をする場合には、この点に関する指示を明確にする必要があると思われる。

最後に、これからの調査の方向としては、動詞の分類をもう少し細かくし、複数の要素を含んだものの比較にならないよう万全を期すべきであろう。

## III 初級日本語における願望表現の扱い方<sup>22)</sup>

I でみた理論的背景とII でみた使用の実態を踏まえ、ここでは、「がーたい」と「をーたい」を日本語教育の中でどう位置づけるのかがいいかについて、私見を述べてみたいと思う。

どうあるべきかを論ずる前に、まず、現在どういう状況にあるかについて見ておきたい。大別すると i) 「がーたい」にする、<sup>23)</sup> ii) 「がーたい」になることが多いが「をーたい」もある<sup>24)</sup> という二つに分かれる。どちらも、I で取りあげた国語研究者の考え方の影響を大きく受けていることは想像に難くない。しかも、この影響が日本で作られた教科書ばかりでなく海外で作られた教科書にも及んでいることは、事の重大性を感じさせる。<sup>25)</sup>

文法と外国語としての日本語教育の問題を考える時、これまで教授者の死角に入っていたと思われる一つの点に思いいたる。それは文法研究の性格である。文法家は、自己の文法の客観性・妥当性を保つために、研究範囲を限定しようとする。<sup>26)</sup> つまり、文法の本分野で扱われるのは、多くの場合、非常に基本的で単純な構造の文であるということだ。願望表現について言えば、必ずといっていいほど、それは「水が飲みたい」であった。

初級の日本語でも、基本的な構造の文からの導入ということで「水が飲みたい」が取りあげられてきたと思う。しかし、日本語の学習は、初級の段階にとどまるものではない。できるだけ先につながる形での学習が理想であろう。「がーたい」で初級を終えた学生が実際に読み教材の中でぶつかるのは、ほとんど「をーたい」である。また、その学生が作文を書いた場合におかしいと言われるのは、ほとんど「がーたい」を使った場合である。

ここで予想されるのは、書く時や読む時にはなるほど「を-たい」が優勢かもしれないが話す場合には「が-たい」の方が多い、という反論である。

確かに、日常会話では、目的語の名詞に焦点があることが多いと思われる。例えば、

A：何が食べたい？

B：そうだなあ、ステーキが食べたいなあ。

といったような会話が考えられよう。しかし、ここで考えてみなければならないのは、AとBの関係である。「です・ます体」でないことから明らかなように、このような会話は、親しい間柄にあるA、B二人の間に交わされるものだろう。親子か、または友達同士か、とにかく、そういう会話の中では、結構、助詞が落ちたりするのではなかろうか。また、目上の人に、願望表現の入った、例えば、「先生、～たいですか？」という質問をすることがあるだろうか。このような表現は、たとえ、それをていねいな表現（「先生、お～になりたいですか？」）にしたとしても適切な日本語にはならない。<sup>27)</sup>

今回、願望表現「たい」についていろいろ考えてみたが、「が-たい」を優先し「を-たい」でもいいという提示の仕方を正当化する根拠は、ついに見出せなかった。

もちろん、「が-たい」は教えなくてもいいと言うのではない。例えば、「～は～が形容詞」という日本語の中の特徴的構文の応用として、可能動詞、感覚動詞、「動詞の連用形+やすい／にくい」などをまとめて勉強するときに、「が-たい」を扱うということもできるのではなかろうか。

教科書は体系的に作られているものだから、あしたからすぐ「が-たい」を「を-たい」にして教えるということではできない。できるとすれば、教授者がいろいろな角度から日本語の使用の実態を見つめなおし、「が-たい」を強調しすぎないということであろう。それが、日本語教師にとっての勇気のある選択であり、また、日本語教師病から逃れ自らの文法論を構築していく自立への道だと思う。

おわりに

本稿では、願望表現のうち「他動詞+たい」だけに問題を限って、論を進めてきた。この問題をより深く検討するには、他の願望表現「ほしい」「～てほしい」や「～たがる」、先にあげた他の「～は～が～」構文との関連の中で検討していくことが不可欠であろう。ここで出した結論めいたものが、初級日本語教授者及び学習者の時間と労力の軽減に、ほんの少しでも役立つことを期待する。

最後になってしまいましたが、今回の調査に御協力くださった方々に、心からの謝意を表します。

## 【注】

1. 日本語では、例えば空ヲ飛ブ・道ヲ歩ク・家ヲ出ルなど、自動詞と他動詞の区別がそれほどはっきりしておらず、この分類を支持しない文法家も多い。他動詞の定義としては、三上章による「受身の成り立つ動詞（能動詞）の中で本来の受身も利害の受身も成り立つもの」などがある。ここでは、「ヲ格」をとる動詞を念頭に置いて論を進める。
2. 希望の助動詞とも言われる。「水が飲みたい」の形は話し手の願望に、これに対応する疑問文は聞き手の願望に対する問いかけに、それぞれ使われるのが普通だ。つまり、「太郎は水が飲みたい」は文法的に間違いで、正しくは「太郎は水が飲みたいのだ／飲みたいようだ／飲みたいと言っている」など、間接的な表現がとられる。
3. 客語とも言われる。補語との区別や、「がーたい」の「が」を主格と見るか対象語格と見るか、といった問題には、ここでは立ち入らない。
4. ほぼ同じ機能を果たすと見られる形が、同時期に二つ以上共存する不確定な状態で、例えば、音韻・活用・構文・語彙上の「ゆれ」がある。土井洋一（1964）によれば、「ゆれ」を問題にした最初の纏まった研究は、国立国語研究所が、昭和29・30年度に行った「語形確定のための基礎調査」であろう P. 264
5. 吉沢義則（1932） P. 5
6. 山田巖（1964） P. 334
7. 国立国語研究所（1956） P. 85
8. 湯沢幸吉郎（1944<sup>a</sup>） P. 151
9. 湯沢幸吉郎（1944<sup>b</sup>） PP. 264-265
10. 同上書 P. 265-266
11. 松村明（1951） P. 48
12. 田村すゞ子（1969）
13. 阪田雪子（1980）は「「田中君を課長に推薦する」「娘を嫁に行かせる」などのように、その行為が他に及ぶような事柄を希望する場合には、「を」がそのまま用いられ、「田中君を課長に推薦したい」「娘を嫁に行かせたい」となるのが普通である。」と説明している。 P. 35
14. 大江三郎（1973）
15. 森田良行（1980） PP. 246-247
16. 同上書 P. 247
17. 訂正してある場合は、訂正後の方を計算の対象として採用した。
18. 「がーたい」が慣用的に使われているものとしては、「親の顔が見たい」が考えられる。
19. 生成文法では、「分裂文」と呼ばれている。
20. いわゆる総記の「が」である。

21. 生成文法などで非文や容認可能性の低い文を表す記号として\*や?などが使われているが、その基準は必ずしもはっきりしていない。
22. 一般的には、英語の“want N” “want to V”に対応するものとして「ほしい・ほしがる」「～したい・～したがる」がいっしょに教えられている。
23. 「The structure〔どうしstem+たい〕may be translated ‘to want to \_\_\_’ . The desiderative suffix-たい is conjugated like an い-type けいようし. The じょし ‘を’ is changed to が when the stem of a たどうし (transitive verb) is followed by- たい. For example, カメラを かう becomes カメラが かいたい.

(Intensive Course in Japanese : Elementary Course volume 3, P. 200)

24. In statements, -tai patterns usually refer to the speaker, and in questions, to the person addressed.
- Tai words have one special characteristic : the direct object (followed by particle o) of a verbal often becomes the subject (followed by particle ga) of the adjectival - tai derivative.

Thus :

Si<sup>h</sup>n<sup>h</sup>bu<sup>h</sup>n o kaima<sup>h</sup> su. ‘I am going to buy a newspaper.’

but :

Si<sup>h</sup>n<sup>h</sup>bu<sup>h</sup>n ga kaita<sup>h</sup>i n desu ga\_ ‘I want to buy a newspaper but ...’

Si<sup>h</sup>n<sup>h</sup>bu<sup>h</sup>n o kaitai also occurs and has the same meaning. With many -tai words the ga alternant is more common, but with some o is more usual. Observe individual examples as they occur.

(Beginning Japanese : Part I, P. 100)

25. 「「を-たい」でなく「が-たい」を使うように教えられてきたが、日本ではよく「を-たい」を使っていますね。」という留学生の声をよく耳にする。
26. 北原保雄 (1981<sup>a</sup>)には、「現在の日本においては、文法論は、音韻や文字、表記などは扱わずに、単語から文が構成されるまでを考察の対象とするというのが、一般的な考え方である。P. 36」, 「文法論は、抽象的な文を対象として行ない、解釈は具体的な文章の中において行なう、というのが、理論的にもすっきりしているし、実際にもやりやすい方法である… P. 47」という記述が見られる。
27. Mizutani, O. and N. Mizutani (1977)には、次のように書かれている。  
Tai, the last part of nomitai, means “want to.” It is used, however, to ask someone else’s wish when politeness is required.

Japanese feel that a person's wish is purely a private matter, and that it is improper, not only impolite, to ask about it directly. P. 13

【参考文献】

- Alfonso, A. 1974. Japanese Language Patterns.  
Tokyo: Sophia University L. L. Center of Applied Linguistics.
- 浅野鶴子. 1972. 「入門期の教授法—文型をいかに積み上げるか—」文化庁編『日本語教授法の諸問題』日本語教育指導参考書3, 61-134. 大蔵省印刷局.
- Clarke, H. D. B. and M. Hamamura. 1981. Colloquial Japanese. London: Routledge & Kegan Paul.
- 土井洋一. 1964. 「ことばの「ゆれ」」『口語文法の問題点』講座現代語6, 264-280. 明治書院.
- Jorden, E. H. 1974. Beginning Japanese: Part I.  
Tokyo: Tuttle.
- 北原保雄. 1981<sup>a</sup>. 『日本語の文法』日本語の世界6. 中央公論.  
———. 1981<sup>b</sup>. 『日本語助動詞の研究』大修館.
- 国語学会編. 1980. 『国語学大辞典』東京堂出版.
- 国立国語研究所. 1956. 『国立国語研究所年報7』
- 松村明. 1951. 「「水を飲みたい」という言い方について」『東京女子大学論集』vol. 1, No. 2, 31-52. 東京女子大学学会.
- Mizutani, O and N. Mizutani. 1977. Nihongo Note 1: Speaking and Living in Japan. Tokyo: The Japan Times.
- 森田良行. 1980. 『基礎日本語2』角川小辞典8. 角川書店.
- 大江三郎. 1973. 「願望のタイの前でのヲとガの交替」『文学研究』70. 梅原恭則編. 1979. 『助動詞』論集日本語研究7. 有精堂に再録.
- 奥津敬一郎. 1973. 「文型教育」文化庁編『日本語と日本語教育(文法編)』国語シリーズ別冊2, 1-26. 大蔵省印刷局.
- 阪田雪子. 1980. 「希望・欲求を表す言い方」国際交流基金『文法II—助動詞を中心にして』教師用日本語教育ハンドブック4, 30-41.
- 鈴木忍. 1972. 「文型・文法事項の指導」文化庁編『日本語教授法の諸問題』日本語教育指導参考書3, 135-218. 大蔵省印刷局.
- 対外日本語教育振興会編. 1970. Intensive Course in Japanese: Elementary Course volume 3. ランゲージ・サービス.

- 田村すゞ子. 1969. 「日本語の他動詞の希望形・可能形と助詞」『早稲田大学語学教育研究所紀要』8, 16-33. 早稲田大学語学教育研究所.
- 時枝誠記. 1941. 『国語学原論』 岩波書店.
- 山田巖. 1964. 「「水が飲みたい」と「水を飲みたい」」『口語文法の問題点』講座現代語6, 332-338. 明治書院.
- 吉沢義則. 1932. 「所謂「ヲ」に通ずる助詞「が」に就いて」金沢博士還暦祝賀会編『金沢博士還暦記念 東洋語学の研究』 1 - 10. 三省堂.
- 湯沢幸吉郎. 1944<sup>a</sup>. 『日本語表現文典』(岡本禹一編)国際文化振興会.
- . 1944<sup>b</sup>. 『現代語法の諸問題』日本語教育叢書 日本語教育振興会.

## 資 料 1

### 現代日本語の用法に関するアンケート

— 「ある」・「いる」, 「好き」・「ほしい」・「…たい」の場合 —

年齢 歳 男女  
 生まれた所  
 育った所 (年 か月)  
 (年 か月)  
 外国語学習歴 語 (年)  
 語 (年)

次にあげる各文について、正しいと思われるものには○、間違っていると思われるものには×、少しおかしいと思われるものには？を、それぞれの( )の中に記入してください。

- 1) a. ( ) どこに本があるの？  
 b. ( ) どこに本がいるの？
- 2) a. ( ) 学校のグラウンドに子どもが三人あって、キャッチボールをしている。  
 b. ( ) 学校のグラウンドに子どもが三人いて、キャッチボールをしている。
- 3) a. ( ) ポチは犬小屋の中にあるよ。  
 b. ( ) ポチは犬小屋の中にいるよ。
- 4) a. ( ) 駅前に有名な犬の銅像があるそうね。  
 b. ( ) 駅前に有名な犬の銅像がいるそうね。
- 5) a. ( ) あなた、何人きょうだいある？  
 b. ( ) あなた、何人きょうだいいる？

- 6) a. ( ) 御兄弟は何人おありなの？  
b. ( ) 御兄弟は何人いらっしゃるの？
- 7) a. ( ) 東京に親類があるんならいいけど……。  
b. ( ) 東京に親類がいるんならいいけど……。
- 8) a. ( ) 友達がたくさんあるってのは、いいことね。  
b. ( ) 友達がたくさんいるってのは、いいことね。
- 9) a. ( ) この大学では、車で通っている学生が60%あります。  
b. ( ) この大学では、車で通っている学生が60%います。
- 10) a. ( ) 子どもに無理やり勉強させる親もあれば、何もしないで放っておく親もあります。  
b. ( ) 子どもに無理やり勉強させる親もいれば、何もしないで放っておく親もいます。
- 11) a. ( ) ことばではっきりと表現する民族もあれば、以心伝心で自分の気持ちを伝える民族もある。  
b. ( ) ことばではっきりと表現する民族もいれば、以心伝心で自分の気持ちを伝える民族もいる。
- 12) a. ( ) お金がほしいなあ。  
b. ( ) お金をほしいなあ。
- 13) a. ( ) 田中さんは、最近、ルビーの指輪がほしがっています。  
b. ( ) 田中さんは、最近、ルビーの指輪をほしがっています。
- 14) a. ( ) ぼ、ぼ、ぼく、花子さんが好きなんです。  
b. ( ) ぼ、ぼ、ぼく、花子さんを好きなんです。
- 15) a. ( ) わたし、太郎さんのことが好きなの。  
b. ( ) わたし、太郎さんのことを好きなの。
- 16) a. ( ) A：何が買いたい？  
( ) B：車が買いたいなあ。  
b. ( ) A：何を買いたい？  
( ) B：車を買いたいなあ。
- 17) a. ( ) 今、とってもフランス語が勉強したいんです。  
b. ( ) 今、とってもフランス語を勉強したいんです。
- 18) a. ( ) ホームランが打ちたいなあ。  
b. ( ) ホームランを打ちたいなあ。
- 19) a. ( ) 早く、ギャンブル生活から足が洗いたい。  
b. ( ) 早く、ギャンブル生活から足を洗いたい。
- 20) a. ( ) カラオケで演歌が思う存分歌いたい。  
b. ( ) カラオケで演歌を思う存分歌いたい。

- 21) a. ( ) いろんな種類のワインが飲んでみたい。  
b. ( ) いろんな種類のワインを飲んでみたい。
- 22) a. ( ) 卒業までに、できるだけたくさん本が読んでおきたいわね。  
b. ( ) 卒業までに、できるだけたくさん本を読んでおきたいわね。
- 23) a. ( ) ビールが飲みたくなるのは、風呂あがりだな。  
b. ( ) ビールを飲みたくなるのは、風呂あがりだな。
- 24) a. ( ) すぐ、この仕事がやってもらいたい。  
b. ( ) すぐ、この仕事をやってもらいたい。

資料 2 「がーたい」「をーたい」の不自然度

生 字 の 番 号	北海道		東北		関東		甲信越		東海		北陸		近畿		中国		四国		九州		その他		計	
1 (16)	38.2	2.9	62.0	7.6	56.5	8.9	59.3	9.9	51.2	4.9	68.2	4.5	48.9	4.5	30.2	11.6	75.0	0.0	55.8	10.8	25.0	25.0	53.7	8.2
2 (17)	61.8	2.9	79.3	1.1	60.5	4.0	70.3	5.5	58.5	0.0	72.7	4.5	58.0	3.4	37.2	11.6	75.0	0.0	65.0	8.3	75.0	0.0	64.0	4.6
3 (18)	52.9	0.0	73.9	3.3	53.2	0.0	67.0	5.5	53.7	0.0	81.8	4.5	51.1	2.7	34.9	7.0	75.0	0.0	61.7	9.2	62.5	12.5	59.2	3.9
4 (19)	94.1	0.0	94.6	0.0	84.7	1.6	85.7	2.2	90.2	0.0	100.0	0.0	89.8	0.0	83.7	2.3	100.0	0.0	90.0	3.3	62.5	12.5	88.9	1.5
5 (20)	88.2	0.0	95.6	0.0	83.1	0.8	83.5	1.1	87.8	0.0	100.0	0.0	81.8	1.1	74.4	0.0	100.0	0.0	92.5	1.7	62.5	12.5	86.8	1.5
6 (21)	70.6	0.0	78.3	0.0	69.4	1.6	74.7	4.4	68.3	0.0	81.8	0.0	71.6	2.7	41.9	2.3	75.0	0.0	73.3	2.5	75.0	0.0	71.1	1.8
7 (22)	97.1	0.0	100.0	0.0	87.1	0.8	94.5	0.0	97.6	0.0	100.0	0.0	89.8	2.7	79.1	2.3	100.0	0.0	92.5	1.7	100.0	0.0	92.5	0.9
8 (24)	100.0	0.0	97.8	0.0	92.7	0.0	94.5	1.1	95.1	0.0	100.0	0.0	96.6	1.1	67.4	0.0	75.0	0.0	94.2	2.5	100.0	0.0	93.6	1.2
9 (23)	35.3	11.8	46.7	0.0	37.9	5.6	50.5	13.2	29.3	4.9	50.0	0.0	27.3	12.5	25.6	9.3	25.0	0.0	53.3	15.0	75.0	0.0	41.5	9.4

※ 各コマの左側が a (がーたい), 右側が b (をーたい) の不自然さの度合を示す。  
センテンス番号の欄の ( ) 内は、アンケート調査票上のもの。

### 資料3

ここに挙げる用例は、昨年出版された二冊の本、黒柳徹子著『窓ぎわのトットちゃん』（講談社）、向田邦子著『父の詫び状』（文藝春秋）と、雑誌『言語生活』の中にある「録音器」のコーナーから採ったものである。用例は、今回の調査項目に対応する形で分類し、助詞が省略されていると見られるものや今回のアンケート調査で特に扱わなかったものについては、「その他」の中に一括してまとめた。

なお、用例のあとの（ ）内の略号は、ト：窓ぎわのトットちゃん、チ：父の詫び状、ゲ：言語生活、数字は、太字が号数を、細字がページ数を、それぞれ示している。

#### ○構造が一番単純な場合

1. でも、もうトットちゃんは、ヒヨコを見ちゃったから、説明を聞きたくなかった。  
（ト：114）
2. ママは、「何々をしなさい」とかは、決していわなかったけど、トットちゃんが、「何何をしたい」というと、「いいわよ」といって、別に、いろいろ聞かずに、子供では出来ない手つづきといった事を、かわりにやってくれるのだった。（ト：184-185）
3. 「病気か、元気か、嘔むとわかる、木の皮を、買いたいの」（ト：219）
4. 履物は揃えて、なるべく隅に脱ぐように母親に言われ言われして大きくなったので、早く出世して一軒の家に住み、玄関の真中に威張って靴を脱ぎたいものだと思っていたと、結婚した直後母にいったというのである。（チ：14-15）
5. 海苔巻の両端の、切れっ端が食べたいのである。（チ：149）
6. 私は早く大人になって、水を飲みながらライスカレーを食べたいな、と思ったものだ。（チ：225）
7. 私は、チャボが卵をうむところが見たくて、首を斜めにしてのぞいていたが、首が痛くなるだけで、とうとう現場は見ず仕舞いであった。（チ：259）
8. 満場を埋めるくらいのさ、すばらしい演奏会をやりたいですね。（ゲ：257, 84, 下）
9. エー、最初ノコロハ、来年度ノ総会ニカケルマデ、一往意見ヲ聞キタイトイウ……、最後ニナッタラ、決ヲトリタイトイウコトニナツタンデスケド。（ゲ：258, 78, 中）
10. 残念だけど胃の痛みはとまる、だから背中の痛みをとりたい、肩こりもとりたいってことになったら、野菜のなかでビタミンが多い野菜と一緒にアロイを入れなさい。（ゲ：317, 85, 上）
11. で、あと例えばね、ダシを取りたかったら、ダシコブとか煮干しとか鳥のガラ、そういうふうなもんでれば一番いいんだけど、いくらそれはねえ、悪いとわかっていても天皇陛下じゃないから、食べなきゃいけないこともあるわけです。（ゲ：317, 87, 中）
12. さっきは、（信じられない）という気持ちと、（なつかしい）という気持ちだったけど、今は、（もう一度だけでいいから、生きてる泰明ちゃんと逢いたい。逢って、話がした

い) という思いで、胸がいっぱいだった。(ト：239)

13. テレビの台本書きの仕事始めて間もなくのことだったが、局のプロデューサーから電話があり、新番組の打ち合わせをしたいので訪ねたいという。(チ：117)
14. 町の中 a さんも足腰の続く限り、きっと町の中を歩かれますが、皆さんもあした一日お仕事のおひま、手を休めるあいだにも、一つお電話にかじりついていただいて、あるいはまた買い物に行かれる道の途中、お会いになる奥様がたに、あるいは御商店の皆様がたにぜひ、A とお願いをしたいんです。(ゲ：333, 70, 中一下)
15. しかし何といってもわたくしが皆様がたにお願いをしたいのは、これからいろいろお話を申し上げますけれども、日本の政治というものをわたくしたちの××(党の名前)でなんとかして少しでも変えさせていただきたい。(ゲ：333, 70, 下)
16. 鹿児島時代をなつかしむ母に、K 先生の写真を見せたいと思ったからである。(チ：49-50)
17. 「魚でも死ぬ時は水を飲みたいと思うものかしら」(チ：171)
18. 人を殺したいと思ったこともなく、死にたいと思いつめた覚えもない。(チ：262)
19. エート、キョウノ生徒総会ハネ、一往生徒全員トシテノ意見ヲ出シテモラッテ、生徒ノ、ソノ、全員カラ出タ意見ヲ、アノー、学校側ニデスネ、一往コレハ僕タチノ問題デスクド、アノー、学校ノ中デ生活シテイク以上ハ学校ノ先生タチトモ話シアワナケレバナラナイノデ、アノー、先生タチトモ話シアイ、デ、今度ノ生徒総会、五月ノ生徒総会ガ、キョウノハ臨時ノ生徒総会、キョウノハ臨時ノ生徒総会デスクガ、五月ノ本当ノ、本当ノトイウノハオカシイケド、生徒総会デ、ソレマデニハッキリ決メルトイウ形ヲトリタイト思イマスケド。(ゲ：258, 77, 中一下)
20. ただいまから座談会を始めたいと思います。(ゲ：264, 105, 上)
21. えー、きょうのご媒酌の大役をおひきうけくださいました 新郎の遠縁であります 株式会社△△建設社長 A さまより ごあいさつをいただきたいとおもいます。(ゲ：318, 70, 中一下)
22. えー それではつぎに、上司であります 国立○○研究所長 B さんに おことばをおねがいしたいとおもいます。(ゲ：318, 71, 上)
23. ××は御町内の生活に密着した手づくりの政治をしたいと考えております。(ゲ：333, 68, 上)

○疑問詞が入っている場合

24. お弁当のあと、みんなと校庭で走りまわったトットちゃんが、電車の教室にもどると、女の先生が、「みなさん、今日は、とてもよく勉強したから、午後は、なにをしたい？」と聞いた。(ト：52)

○強調を表わす語句がある場合

25. 子供心に、どうしてこんなに性格の違うのが夫婦になったのかと思っていたのだが、私はどうやら父親らしく、結婚式やパーティなどで引出物を戴くと、もう一刻も早くを改めたくて我慢が出来ない。(チ：33)
26. そんなにまで新調の衣裳を着たいのか、人に見せびらかしたいのか。(チ：33-34)

○慣用句の場合

27. 私は、「開」のボタンを押してもう一度声をかけたいという衝動を辛うじて押えた。(チ：58)

○目的語と動詞の間に連用修飾語の入っている場合

28. トットちゃんは、ロッキーに、「もう大丈夫！誰も怒っていない」ということを、早く知らせたくて、いそいで家に入った。(ト：139)

○動詞に補助動詞がついている場合

①～てみる

29. 私はまたあのうちを覗いてみたくなった。(チ：128)
30. ニッキ水やミカン水、お好み焼を食べてみたかった。(チ：204)
31. 私も、人なみに物のあわれのわかる年頃になったことだから、一度ゆっくりと歌のころを噛みしめながら、百人一首を取ってみたいと思いながらつつい果さずにお正月が終っている。(チ：97)

②～てやる、～てもらう、～ていただく、など

32. 私の木に泰明ちゃんを招待して、いろんなものを見せてあげたいと思ったのに……(ト：90)
33. 猫に伊勢海老を見せてやりたいという気持がチラと動いたが、結局やめにした。(チ：10)
34. 父親の名前も顔も知らないで育ち、他人の家を転々として大きくなった父は、初めての男の子に、自分で釣った鯉や鮎の泳ぐ池を見せてやりたかったのだろう。(チ：21)
35. ソシテ、ソノー、異装シタ場合モ、制服ヲ着用シタ場合モ必ズ学校ノ校章デスネ、バッジ、ソレヲ必ズツケルトイウ、ソウイウ条件デ、アノー、ソウイウソウイウ条件ノモトデ、オオゲサニイウ自由化トシテ、自由化トイウノハオカシイカナ、制服ヲ原則トシタ異装、ソウイウ形デ、アノー、皆サンニチョット意見ヲ言ッテモライタインデスケドネ。(ゲ：258, 78, 上)
36. ソレデ、決ヲトル、賛否ヲトル前ニ多少ノ意見ヲ出シテイタダキタインデスガ。(ゲ：258, 78, 中)
37. 仲良く ウエディングケーキにナイフを入れていただきますので皆様にはえー祝福の拍手をそえて いただきたいとおもいます (ゲ：318, 71, 下)

38. こら、あのエーここで二人の議員をアノウー持つということは既得権でございますのでどうぞ二人の議員を生かしてもらいたいと思います。(ゲ： 333, 71, 上)
39. まずッ、今日の、エー、スケジュール的にはですね、エー、今日の説明会の御案内の時に一往内容的なものをお送りさしていただきましたんですが、前半に御旅行全般についてのエー、御案内、エー、御旅行内容について御理解いただきたいところで、エー、もうすでにパスポート類をお持ちのかたもいらっしゃいますんですが、これから旅券申請をするという、パスポートがないと旅行できないもんですから、旅券申請について、エー、御案内する、と、大きくふたつに分けて、エー、御案内をさしていただきたいと思います。(ゲ： 344, 56, 中)
40. ですから、是非、あんまり大金をお持ちいただかないで、お財布がわりに、そのセイフティー・ボックスを御利用いただきたいと思います。(ゲ： 344, 58, 中)

○その他

①助詞が省略されているものと見られるもの

41. 未完成どっかでやりたいですね。(ゲ： 257, 83, 上)
42. ぼくは演奏会よりも、なんか室内楽団作りたいな。(ゲ： 257, 84, 下)
43. ここ一番言いたかったの。(ゲ： 317, 87, 上)
44. ねえ、オシンコ食いたかったから、オシンコは自分の家で漬けて食べればいい。(ゲ： 317, 87, 中)

②アンケート調査で扱わなかったもの

45. 高橋君の目はクリクリして、何かを話したそうにしている目だった。(ト： 122)
46. トットちゃんは、その、ねずみ色みたいな皮を、自分も試しに、噛ませてもらいたい、と思った。(ト： 218)
47. でも、右田君が、実に無邪気に、「みんなに、おいしいものを喰べさせたい」という気持ち<sub>を</sub>現わしているのだから、と、一緒に笑った。(ト： 261)
48. 竹の皮に海苔巻を包む母の手許を見ながら、早く大きくなってお嫁にゆき、自分で海苔巻を作って、端っこを思い切り食べたいものだと思っていた。(チ： 150)
49. 早く大人になって、アイスクリームを一度に二つ食べてみたい、と思っていた。(チ： 161)
50. そして丁度いい座談会にはもってこいの人数だと思しますので、ぜひ、あの一、有意義なお話し合いをしたい、していきたいと思います。(ゲ： 264, 105, 上-中)
51. えー ただいまより Xさま Yさま ご二人の結婚披露宴を 開催させていただきたいとおもいます。(ゲ： 318, 70, 中)
52. わたし、ホントにこの a さんのこの二十二日、選挙、そして二十三日の開票を本当にわたしが期待を持って祈るような気持でこれ見さしていただきたいと、こう思っておるんです。(ゲ： 333, 70, 中)

53. ここで皆様にひとふんばりをしていただきましてこのAを議政壇上に持って行っていただきたいと思います。(ゲ：333, 71, 中)
54. 15に同じ。
55. 実は、この、シンガポール、マレーシア、このガイドブックにも、エー現地ガイドがいろいろ書いてございますので、エー、このへんを追って御案内もあわせてしていきたいと思いますが、エー、シンガポールは、日本よりも一時間三十分おくらせております。  
(ゲ：344, 57, 下)
56. え、で、屋根をどうしても見せたかったもんですから、ごく標準的な位置からにしちゃいましてね、ちょっと、こう、ちごこまっちゃった感じがするんですけどね。  
(ゲ：357, 52, 下)